

第2次日野市公民館基本構想・基本計画策定委員会要点録（第1回）

1. 第2次日野市公民館基本構想・基本計画策定委員 委嘱

◇米田教育長より各委員に委嘱

◇米田教育長挨拶 ・教育基本法、社会教育法からの公民館の説明

・日野流の公民館を作り上げてほしい

・一人一人が持つリアリティを大切に大いに議論して作り上げてほしい。

◇策定委員 各自己紹介

◇策定委員（アドバイザー） 自己紹介

2. 委員長等の選出

◇委員長を選出にあたり設置要綱より委員の互選により定めます

◇副委員長は設置要綱より委員の中から委員長が指名する

◇第2次日野市公民館基本構想・基本計画策定委員会の委員長及び副委員長の決定

・教育長公務により退席

～委員長に進行交代する併せて席替え～

3. 第2次基本構想基本計画策定委員会について

(1) 策定委員会組織

・設置要綱の説明

(2) 委員謝礼の説明

・口座登録等の説明

4. 今後の進め方

◇策定スケジュールの説明

・日程についてはそれぞれいろいろな意見が出る

・貴重な時間を調整で時間をとるのはもったいない

《事務局》

日程前半4回は確定、後半5回目以降の日程についてはそれぞれ意見等を事務局に上げ

それを調整し次回に提案する。

◇第2次公民館基本構想・基本計画の骨子(案)の説明

5. 今までの振り返り

(1) 日野市の計画の体系について説明

・日野市公民館基本計画・基本構想は今年度で10年目の最終年度となり、第2次計画・構想は5年間の計画となる

(2) 公民館運営審議会との関係について

・公民館運営審議会は意見・評価を頂いているところであり、基本構想・基本計画からの内容についても中央公民館より運営審議会に報告するものです。

◇日野市生涯学習推進基本構想・基本計画の3つの柱として「学び」「つながる」「行動する」が具体的なキーワードとなる

質問

・当初の計画は10年間でしたが、第2次は5年間だが？

⇒社会情勢が毎年大きく変わり10年スパンで意味がなく、そのようなことを踏まえ5年間とします

・5年間の中で適宜見直しが必要

6 協議事項

(1) 基本構想・基本計画の目的について・・・ ☆各委員からの意見をいただき事務局で集約する

◇毎回意見を出すのが公民館がどこにあるのか知らない人多すぎる。アンケート結果でも出ている講座を聞きたいけど、これない人のため出張講座をやってほしい。

⇒弱点を知ることが非常に大事、日野市は中央館しかないこと、このことは今後盛り込むべき！前提と押さえておくべき。

⇒従来公民館活動が維持できるか再検討が必要、役割分担、予算問題制約の中でどうやっていくのか、限られたスペースを活用して展開も（シェアリング）

「私たちのって住みよいまちとは？」 各委員からの意見

- 基本構想・基本計画では理念を具体的にどう行っていくかが明確でなかった
- 理念がトップ ⇒ ブレイクダウン
- 10年で情報化、国際化の変換 SDGS ⇒ 住み続けられるようなまちに
- 住みよいは、住み続けられることが大前提
- 公民館でないところで学んでいる人もいる、どこでも学べていない人にも学びを！
- 公民館講座などを通してお互いの価値観・目的を共有できる
- 自分たちが何をできるか考える仲間がほしい
- 公民館が不足 ⇒ 公民館に來れない人のため地区センターの活用を
- 外国人居住者増による付き合い方 ⇒ つながりのための環境づくり
- 外国人との共生は公民館が良いのでは
- 公民館を知らしめるため口コミを徹底的に(公民館を知らない人へ)
- それぞれ故郷の公民館を思い出してみよう
- ワイワイガヤガヤ話し合いを楽しめる場
- 一人暮らしの高齢者でもできるサークルがあれば
- 高齢化している中で、出かける足が無い 公民館が出張講座を
- 気軽に話し合える場所、笑える場所、健康、友愛を大切に…社会貢献も大切
- 地区センターなどを利用した出張講座
- 近所との声掛け
- 公民館はバリアフリーを進める必要
- 地域での社会貢献 ⇒ 地区センターで学習 ⇒ 成績向上
- 「暮らしを豊かにする為に行動できるようにする」 ⇒ そのための計画
- 「誰がやるのか」新たな担い手を意識する(つながり連携)
- 談話室の利用 分室を含め2館しかないのだから利用できる場所があればよい、お茶でも飲みながら。
(自由にだれでも利用できる場所)
- 他のセクションとの連携、地区センターの活用、空き家の活用
- 利用者を増やすためには公民館を認知させる、他イベントでのPR 推進
- 公民館でのつながりが市民活動を充実するものである。
- 2040年まで日野市の人口は減少しないとの見解が出ている。
- 子どもの遊び場(スポーツ)確保
- ここにしかないことが問題、地区センターの活用、地図に載せるにはどうしたら良いか、検証を
- SDGSを上位に考える 住み続けられる街に 国際化
- 多世代(+外国人も)の方と関わる場
 - ・ゼミで活動(呼びかけても)多世代が一緒に関わるのがほとんどない(偏りがある)
 - ・自分と違う考え価値観を知ることができる!(自分と同世代としか関わらない・つまらない)
 - ・公民館は多種多様な方が来られている(ここに來れば誰かがいる、異世代の方がいる)
 - ・大学にただ通うだけ ⇒ 公民館ならできる!

(2) アンケート調査の実施方法について

- ・無作為抽出…
特性を持った人にも必要(障害者、外国人など)フリガナ・外国語版も必要では

○アンケートの原案はメール等でお願ひする。次回までに示せるようにする。